

生徒指導・教育相談における児童生徒を支援する力を高める研究（2年次）

～児童生徒理解の深化と活用～

福島県教育センター 教育相談チーム 指導主事 阿部 光

1 研究の趣旨

本研究のねらいは、児童生徒理解に焦点を当てた校内研修の充実と、教員の日常指導の見直しを通じた、教員自身及び教員組織の「児童生徒を支援する力」の向上にある。本研究においては、教員が日頃の自分自身の児童生徒理解に対する取組について確認し、それを基に児童生徒理解を多面的・多角的に深めたり、深めた理解を日常の指導・支援に直接的・間接的に活用したりすることができるような校内研修の内容や日常指導のあり方について提案することを通して、「児童生徒を支援する力」の向上を目指すため、以下に述べるような仮説を設定し、本主題に迫った。

各学校において、児童生徒理解の深化やその理解を生かした指導・支援のあり方に焦点を当てた校内研修と日常指導の充実を図れば、教員及び教員組織の「児童生徒を支援する力」を向上させることができるであろう。

2 研究の概要

- (1) 「児童生徒を支援する力」の実態把握
昨年度に引き続き、「児童生徒を支援する力」についてアンケート調査を実施し、研究協力校の教員の実態を把握し、校内研修に生かす。
- (2) 児童生徒の実態把握
「hyper-QU」により、児童生徒の学校生活への意欲や満足度、ソーシャルスキルの定着度などを把握する。また、それらのデータを事例として扱い、児童生徒理解の深化を図る。
- (3) コアチームの立ち上げ
研究協力校の児童生徒の実態と教員の思いにそった校内研修を提案していくために、小・中各校の代表と教育センター所員によるチーム会議を実施する。
- (4) 日常指導の充実
「日常指導ふりかえりシート」により、自身の日常指導や児童生徒理解の傾向と現状を把握する。それを基にこれからの「日常指導」の方針や方向性を再確認し、実施可能な具体策を策定・実行するよう促す。
- (5) 校内研修の充実
教員の「児童生徒を支援する力」の向上を目指し、研究協力校の教員のニーズに対応した年3回の校内研修を行う。

3 成果と今後の課題

- (1) 研究の成果
 - ① コアチーム会議などにより教員の思いやニーズを把握し、研修の内容について協議することで、実態に即した校内研修を実施することができた。
 - ② 第1回校内研修①（日常指導の充実のための日常指導ふりかえりシートを活用した演習）では、自分自身の「日常指導」の傾向と現状について振り返り、その後の「日常指導」の方向性と具体策を練ることができた。
 - ③ 第1回校内研修②（認め合いやリレーションの確立を図るための提案授業）では、教育相談的な手法を取り入れた授業の進め方について、また承認感を高めたりリレーションを確立したりする際の教師の働きかけについて提案することができた。
 - ④ 第2回校内研修では、「hyper-QU」の活用を図りたいという要望を受け、「hyper-QU」の結果を事例とした研修を行った。その結果、データの分析を通じた児童生徒理解の深化や指導・支援の在り方について共通理解を図ることができた。
- (2) 今後の課題
 - ① コアチームによる話し合いの中で、「特別な教育的支援を必要とする児童生徒への理解と支援の在り方」について学びたいという要望が出された。そこで、小学校から中学校までの各発達課題についてあらためて確認し、通常学級における特別な教育的支援を必要とする児童生徒の一般的な特徴や対応の在り方等について学ぶ機会を通して、児童生徒理解の深化と活用を図っていきたい。
 - ② 事後アンケートと「hyper-QU」の結果の分析を通して、「児童生徒を支援する力」の変容の確認をする。